県立埋蔵文化財センター ワクワク考古楽 略案

実施日 令和元年9月2日(月)・3日(火)

実施校 2日(月)5校時

薩摩川内市立里中学校 全学年28人

3日(火)2校時

薩摩川内市立里小学校 5・6年14人

授業者 埋蔵文化財センター文化財主事 藤島伸一郎

湯場﨑辰巳

1 目標

地域に所在する遺跡の調査事例を教材とした多面的な授業を行う。これにより地域の歴史を考察し、史跡・遺跡の文化財としての意義を認識する。また、本物の遺物に触れ、文化財の大切さを意識する。

2 実際

地域の遺跡や文化財を知ろう。

過 程	生 徒 の 活 動	時間	センター職員の活動 (指導内容)	準備・留意点
	○埋蔵文化財センターの役割を業務内		1 埋蔵文化財センターの業務説明	○業務内容説明には画像
	容から把握する。		業務の内容の説明する。	資料等を活用する
導 入	○地域に密着した歴史を学ぶ意義を確	10	2 地域にどんな遺跡があるか説明	○地区の遺跡分布図を提
	認する。			示する
	○自分たちの地域に鹿児島県でも,有数		2 中町馬場遺跡の概要説明	○児童・生徒が、教科書
	の遺跡があることを知る。		(1) 卑弥呼や前方後円墳が作られた時期に中町	の内容と結びつけて捉え
	○日本史での中町馬場遺跡の位置を把		馬場遺跡があったことを説明する	られるような箇所を中心
	握する。		(2) どんな発見があったかを説明する。人骨や土	に選択する。
	○鹿児島県でほとんど発見されていな		器・鉄刀の説明をする。	○専門的にならないよう
	い,弥生・古墳時代の骨が発掘されてこ			に留意する。
	とを理解する。		(3) 土器の形から、鹿児島県の土器から、肥後系	○質問して児童・生徒に
展開	○なぜ、肥後系(熊本)の土器が多く出	中学校	の土器が多く出土する理由を解説する。	考えさせる。
	土するのかを考える。	3 5	(4) 貝層から当時の人々がどんなものを食べてい	
		小学校	たかを理解する。	○当時の食生活を考えさ
	○骨の写真から、当時の人々が、どんな	3 0	(5) 埋蔵文化財センターから持ってきた土器や石	える。
	ものを食べていたかを想像する。		器に触れて、本物を実感する。	
	○本物に触れてみよう。			○本物の文化財なので、
				丁寧に扱うよう指導す
				る。
まとめ	○遺跡や調査中の文化財通じて地域の		○文化財を通じて地域の歴史的な位置付けを伝	○通常の学習内容との連
	歴史的な位置付けを理解する	5	える。	続性を意識したまとめを
				行う。
L	l .	l		

3 その他

準備するもの

当日資料・埋文キット (土器や石器)・パソコン・プロジェクター・スクリーン

県立埋蔵文化財センター ワクワク考古楽 略案

実施日 令和元年9月3日(火) 3日(火)3校時

薩摩川内市立里小学校 5・6年14人

授業者 埋蔵文化財センター文化財主事 藤島伸一郎

湯場﨑辰巳

1 目標

上野原縄文の森に来ないとできない体験活動を行い、古代の人々の生活を体験して、遺跡への関心を高め、地域の遺跡や文化財に関心を持たせる。

2 実際 火起こしをしてみよう。

過	程	生 徒 の 活 動	時間	センター職員の活動 (指導内容)	準備・留意点
		○火をおこすための方法を知る。		1 火おこしの方法の説明をする。	
				火打ち石・キリモミ。マイキリなど	
導	入	○マイキリ式の火おこしの方法・注意	10	2 マイキリ式の方法を説明する。	
		事項を聞く。			
		○マイキリ式の火おこしの実際を見		2 マイキリ式の火おこしの方法を説明しなが	○児童・生徒が、教科書
		て、学習する。		ら,実践する。	の内容と結びつけて捉え
					られるような箇所を中心
		○2人1組になり、火おこしの道具を準			に選択する。
		備する。			
		○道具が準備できた組から、火おこし		3 効率的な火おこしをアドバイスする。	○やけどをしないように
展	開	を体験する。	小学校		注意する。
			2 5	4 火がおこせない組には、手伝う。	
ま	とめ	○火おこしの難しさを体験して,			○通常の学習内容との連
		古代の人々の生活を想像する。	10		続性を意識したまとめを
		○道具の片付けを行う。			行う。

3 その他

準備するもの

火おこしセット 8組 (埋蔵文化財センター)

里小学校へのお願い。

- 消火用のバケツを4つほど準備をお願いします。
- 屋外で、屋根のついた場所を用意ください(雨天対応のため)。 雨天時の場合も、火おこしは可能ですが、火はつきにくいですので、ご了承ください。